

マーケット概況（2023年8月）

8月の債券相場は、前月末に5年超10年以下の臨時オペが実施されたことで、YCC運用柔軟化を受けた債券売りが一服し、先物中心に小幅に買いが先行して始まった。ただ、超長期ゾーンは臨時オペの対象にならなかったこともあり重さが目立った。1日の10年債入札が弱めの結果となり、2日にフィッチが米国の長期債格付けをAA+に引き下げると、債券相場は下落に転じたが、8日の30年債入札が順調な結果となると超長期ゾーン中心に切り返し、10年371回債も0.565%まで買われた。しかし、インフレ圧力の根強さを背景に米国の長期金利が上昇し、17日の20年債入札が1987年12月以来の大きさとなるテール96銭と極端に低調な結果となると、超長期ゾーン主導で再度売りが優勢となった。さらに23日の10年超25年以下を対象とした国債買入オペの結果が需給悪化を示す内容となると債券相場は下げ幅を拡大し、10年371回債の利回りはカレントとして2014年1月23日以来の水準となる0.675%まで上昇した。その後、24日の15.5年超39年以下の流動性供給入札が強い結果となると相場は下げ止まり、29日の2年債入札が低調な結果となったことで2年452回債はカレントとして今年1月18日以来の0.030%を付ける場面があったものの、結局10年371回債は0.640%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利はYCC運用の柔軟化後も目線は変わらず、4日の3M1173回債入札では前回債と同水準の-0.0962%での消化となった。その後は需給良好な状況が続き、月後半にかけては徐々に金利低下の流れとなり-0.11%台後半~-0.130%で推移した。25日の3M1178回債入札では、積極的な買いから落札利回りは-0.1483%の一本値と想定よりも強い結果となり、入札後は-0.350%まで低下し取引された。6M1174回債入札は、海外の投機資金の流入も見られ最高落札利回りは-0.1423%と強めの結果となり、入札後は-0.159%で取引された。一方、1Y1176回債入札はマイナス金利政策撤廃時期への思惑などから最高落札利回りは-0.0559%と低調な結果となったが、全体的な品薄感のなか、月末にかけては-0.100%まで低下し取引を終えた。

<一般債市場>

日銀によるYCC運用柔軟化に伴い国債相場が不安定な動きとなるなか、8月の定例地方債10年債は、長期金利上昇を背景に絶対金利を意識したニーズからスプレッドが前月対比5bpタイト化の国債対比+16.0bpとなる一方、5年債は3ヵ月連続で国債対比+13.0bpで条件決定した。投資家の需要は高く、新発債では需要を満たせず既発債にも活発な押し目買いが入った。SDGs債関連では、OSGが切削メーカーとして世界初のグリーンボンドを起債したほか、TREホールディングスが同社初のESG債を起債した。社債発行額は、7,940億円と8月としては2009年以降で過去最高となり、高水準の起債が続いた。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#371	0.595(1日)	0.565(9日)	0.675(23日)	0.640(31日)
#370	0.575(1日)	0.545(9日)	0.655(23日)	0.615(31日)
#360	0.385(1日)	0.355(9日)	0.445(17日)	0.400(31日)
#159-#160(5Y)	0.175(1日)	0.170(9日)	0.240(23日)	0.215(31日)
#185(20Y)	1.250(1日)	1.225(9日)	1.415(23日)	1.375(31日)
#1167-#1174 TDB(6M)	-0.140(9日)	-0.159(9日)	-0.140(9日)	-0.159(9日)
#1172-#1178 TDB(3M)	-0.105(4日)	-0.350(25日)	-0.104(4日)	-0.350(25日)